

難民 1～22

1



世界各地の主要な難民・難民とは？

2



難民の実態

エチオピアの難民キャンプから帰って来た元スーダン難民。(1995年5月)

3



難民の実態

ブルンジ北部にあるルワンダ難民キャンプ。(1995年5月)

4



難民の実態

コンゴ民主共和国から新たに難民が逃れてきた。タンザニアにて。(1996年12月)

5



難民の実態

大勢の難民がルワンダへ帰る途中、一時的に雨風をしのぐため、UNHCRからビニールシートが配給された。(1996年12月)

6



難民の実態

タンザニアの難民キャンプから、帰国するルワンダ難民。(1996年12月)

7



難民の実態

コンゴ民主共和国から帰国するルワンダ難民。(1997年4月)

8



難民の実態

冬が近づくにつれ、避難民はおそろる自分たちの破壊されてしまった家に戻り始めた。一部屋は、落ちた屋根の残がい取り除いて使用できるようにしたが、この家族はいつでも逃げ出せるよう、野外で寝起きしている。コンボにて。(1998年10月)

9



難民の実態

破壊されたモスク。1993年4月に、100人以上が殺された虐殺の舞台となった。(1999年2月)

10



難民の実態

マケドニアとの国境をめざして線路の上を歩くコンボ避難民たち。国境付近は無人地帯だった。(1999年4月)

難民

11



難民の実態

コンボから脱出する住民。そのほとんどは老人や女性、子どもだった。(1999年4月)

12



難民の実態

1999年、4月中には毎日、何千もの難民がコンボとアルバニアとの国境の町にたどり着いた。難民の多くが避難してくる途中で、家を焼かれ、男が連れ去られるのを見ていた。(1999年4月)

13



難民の実態

追い立てられ、着の身着のままトラックに乗ってマケドニアに逃げようとするコンボ住民。(1999年4月)

14



難民の実態

マケドニアに設置された最初の大規模なコンボ難民受け入れセンター。UNHCRの支援を得て、NATO（北大西洋条約機構）によってつくられた。(1999年4月)

15



難民の実態

コンボへの帰還民たち(1999年6月)

16



難民の実態

コンボにて。帰還民たちが集団墓地から発掘された犠牲者の衣服で身元を確かめている。(1999年8月)

17



UNHCRの支援

タンザニアにあるルワンダ難民のための診療所(1995年5月)

18



UNHCRの支援

難民キャンプでサンスクリット語の授業を受ける、ブータンからの難民の子どもたち。ネパールにて。(1993年7月)

19



UNHCRの支援

1998（平成10）年から始まったシエラレオネ反政府武装勢力による手足切断の残虐行為で、多くの一般市民が犠牲となった。これは、恐怖によって人々に忠誠を誓わせようという目的で行われた。ギニアの国立小児医療センターで手当を受ける犠牲者の一人。(1999年6月)

20



UNHCRの支援

ルワンダ難民に配給される高タンパクビスケットの空輸。コンゴ民主共和国にて。(1997年2月)

21



UNHCRの支援

高カロリーのビスケットの配給のため、列をつくる帰郷途上のルワンダ難民。タンザニアにて。(1996年12月)

22



UNHCRの支援

スリランカでUNHCRが設立した職業訓練所。帰還民たちは、雇用に有利になるよう、新しい技能を学ぶ。コンピューターの授業などがある。(1995年5月)